



日本女医学会誌

公益社団法人日本女医学会
復刊第252号
2024年9月25日発行
題字 吉岡彌生

巻頭言

東京都知事選挙を振り返り、 民主主義について考える

会長 前田佳子



2024年7月7日に東京都知事選挙の投開票が行われた。立候補者は過去最多の56人で、ポスター掲示板の掲示区画が足りなくなるという事態になった。選挙結果は現職の小池百合子氏が291万8015票を獲得して3回目の当選を果たした。

今回の都知事選挙は様々な点で異例の選挙であったといえる。世界一高いと言われる供託金300万円を払って56名が立候補した。東京都選挙管理委員会は2020年の選挙より18人多い48人分のポスター掲示区画を準備したが、49人目以降の候補者はクリアファイルと画びょうでポスターを枠外に掲示することとなった。現在一部の立候補者が「公正な選挙に反する」などの理由で東京都を提訴している。一方でNHKから国民を守る党は立候補者のポスター掲示区画を販売し、選挙とは関係ないポスターが掲示されるという事態も起こった。それ自体は公職選挙法に抵触しないが、全裸に近いポスターは東京都の迷惑防止条例に違反する疑いで警告が行われた。

NHKの政見放送は希望する全ての立候補者が録画による政策の訴えをすることが出来る。しかし、掲げる政策について他の候補者と意見を戦わせる討論会の場はほとんど設定されなかった。日本記者クラブが主催した共同記者会見と東京青年会議所が主催の討論会は主要候補とされた小池氏、蓮舫氏、石丸氏、田母神氏の4人だけで行われた。民放が企画した討論会が実現しなかったのは、現職の小池都知事が公務を優先するという理由で出席を拒否したことが大きな原因とされている。56人の立候補者のうち出席を承諾した候補者だけで討論をすることは可能だったはずで、実際ニコニコニュースとフリーライターの畠山理仁氏が主催で「東京都知事選2024候補者ネット討論会56.0」が開催され、33人が参加している。(https://

www.youtube.com/live/9fAJITOIvfvg?si=6030PbgUWPMfUeIg)

インターネット等を利用する方法による選挙運動は議員立法によって2013年に解禁されたが、実際には10年以上有効な活用がされて来なかった。しかし今回の都知事選では、これまでにない勢いでネットに動画が拡散されたことにより、前広島県安芸高田市市長の石丸伸二氏が165万8363票を獲得し、3位だった前参議院議員の蓮舫氏の128万3262票を大きく上回った。この結果は今後の選挙のあり方を大きく変化させる可能性を示唆している。

何と言ってもこれこそが「民主主義」といえる行動が「一人街宣」の広がりであったのではないだろうか。2年前の杉並区長選挙で岸本聡子氏が現職を破って当選したときに、岸本氏を支援する杉並区の女性たちが自主的に始めたのが「一人街宣」であった。のちにこの女性たちの中から区議になった方が何人もおり、杉並区議会はパリティを実現している。今回は誰が組織することなく、はじめは何人かの都民が個人で一人街宣を始め、それを知った人たちが自分の声を届けようと次々に一人街宣をしてSNSにあげ、のちには日本全国そして海外にまで広がった。Google mapを使った「一人街宣」の可視化が行われるようになり、のべ3000人以上が724駅で街宣をした。投票行動をしている人たちがまさに政治の当事者であり、主役が有権者であるという民主主義の根幹が具現化されたと言える。

日本女医学会は公益法人であり、特定の政治団体や特定の政治家の支援はしていない。しかし政治は生活であり、誰もがその当事者であるべきである。これを機にそれぞれが民主主義の大切さについて考えて欲しい。

日本女医学会誌（復刊第252号）もくじ

巻頭言	前田佳子 (1)	新役員ご挨拶	青山さつき、新谷朋子、	2023年度女性の健康支援事業委員会 online
第69回定時総会	(2)	大橋俊子、織田洋子、芳川た江子	(6)	公開講演会
支部本部連絡会報告	前田佳子 (3)	第69回定時総会公開講演会抄録		磯貝晶子 (12)
受賞者の言葉				日本女性医師デー制定記念イベント報告 (13)
山谷文乃、村上綾、皆川智子、飯田円	(3)		浦野広明 (8)	理事会議事録 (13)
東京都支部連合会主催懇親会	渡邊弘美 (5)	第69回定時総会議事録	(9)	ダイバーシティ推進キャリア・シンポジウム (17)
2024年度 新役員紹介	(6)	北から南から⑩	西山緑 (11)	長寿社会福祉事業オンラインセミナー (18)
		ピンクリボンウォーク2024	(11)	会員動静 / 寄附者一覧 / 編集後記 (18)

第69回 公益社団法人日本女医会 定時総会

概要

2024年5月19日、第69回定時総会は東京都港区浜松町ビルディング シミック L&D Rooms1において、定刻通り午前11時に庶務部部長 芳川た江子理事の発声のもとに開会された。



藤谷宏子副会長による開会の辞が述べられた後、総会成立が確認され、定款規程通りの会員総数の2分の1以上の出席、及び委任が報告された。これをもって総会の開会を宣言した。その後、2023年5月23日から2024年5月18日までに物故された7名の会員に対して黙祷が捧げられた。

会長挨拶では、120周年記念事業の一環として、日本女性医師デーを登録した旨が報告された。また能登半島地震や戦争により犠牲者が絶えない昨今、私たち女性医師は、国民の命を守る立場である医療者として常に軍拡を許さず、平和を求めていくことが必要であり、日本女医会はこれからも平和を求める発信を続けていく決意が述べられた。

報告事項は、藤谷宏子副会長より「第69回定時総会資料」に基づき行われた。

またナショナルコーディネーター報告は、前田会長から本年7月にフィリピンのセブ島で開催される西太平洋地域会議へ参加の呼びかけがあった。

議事に入る前に、議長団の選出があり、会長一任で議長に浅見豊子会員（佐賀支部）、長井桂会員（北海道支部）、議事録署名人に山上実千子会員（江戸川支部）、池田康子会員（山梨支部）が任命され、議事進行がなされた。

その結果、承認第1号から第3号までが承認されたほか、報告第1号から第4号の賛同を得て、すべての審議、及び報告が終了。議長団、及び議事録署名人が降壇し、引き続き各賞の表彰が行われた。

議事

- 承認第1号 2023年度事業報告承認の件
- 承認第2号 2023年度決算報告承認の件
- 承認第3号 2024役員選挙の結果及び新役員承認の件
- 報告第1号 2024年度事業計画の件
- 報告第2号 2024年度予算の件
- 報告第3号 「日本女性医師デー」開催の件
- 報告第4号 次期及び次々期総会開催地に関する件



表彰

表彰では、学術研究助成は、村上綾氏（関西医科大学神経内科学講座 病院助教・大阪支部）に授与されたほか、最も優れた研究として山谷文乃氏（兵庫医科大学医学部産科婦人科学講座 講師）に第8回山崎倫子賞が授与された。

第9回溝口昌子賞は皆川智子氏（弘前大学医学部付属病院 診療講師・青森支部）に授与された。第6回山本纈子賞は飯田円氏（名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科学 助教）に授与された。

各賞の授与式の後、功労会員として中田恵久子氏（埼玉支部）が表彰された。また、永年会員を代表して渡邊弘美東京都支部連合会長より挨拶があった。

その後別室において、新役員の互選による会長、副会長の選出が行われ、臨時理事会に於いて承認後、総会会場にて発表が行われた。

発表の後、青木正美副会長により閉会の辞が述べられた。

（文責 広報部）



第69回定時総会 支部本部連絡会報告

会長 前田佳子

定時総会開催に先立ち、支部本部連絡会がハイブリッドで開催されました。東京での支部本部連絡会開催は6年ぶりとなりました。現地は25人、オンラインで6人が参加し、それぞれの地域での活動報告をおこなっていただきました。

馬場安紀子（栃木支部）：昨年のエクスカッション、会員懇親会、総会を開催してみて、大きな経験が出来、会員のつながりも深くなったので、いいことばかりだった。対面開催の良さを実感した。

黒崎伸子（長崎支部）：日本女医会会員の高齢化もあり、長崎女性医師の会とともに活動している。「おイネの十徳」の著者の馳月基矢さんを招き、3年後の楠本イネの生誕200年に向けて活動を行う予定。

渡邊弘美（東京都支部連合会）：今回の会員懇親会を企画、東京湾クルーズで楽しい時間を過ごすことができた。会員250人、比較的高齢の方が多い。会長経験者を名誉会員などにして会員として名前を残してもらってはどうか。

竹並麗（埼玉支部）：会員数70人、毎年4～5人入会してくれているが、退会者もあり会員数は増えていない。7月の総会には毎年本部から出席していただいている。県や医師会の仕事をしている会員が多い。

長井桂（北海道支部）：北海道女性医師の会の一部が日本女医会の会員になっている。60～70歳代が多く、会の創設の頃を支えてきた人が多い。女性医師の会という名前に拒否感を感じる人も多いが、女性医師同士で会を創って行く楽しさを分かってもらえるのではないかな。

浅見豊子（佐賀支部）：昨年はブロック懇談会を開催した。1月に総会と懇親会を開催している。佐賀県女医会や日本医師会女性部会と一緒に懇親会を開催している。会員の大田記代子先生から「女医と平和」について講演していただいた。

大野広子（岡山支部）：会員数9人、今年になって大学の若い先生が3人入会した。十代の性の問題について公開講演会を開催し、評判が良かった。岡山県医師会女医部会ともリンクして活動していきたい。

池田康子（山梨支部）：コロナの影響で4年間支部の会が開催できていなかった。6月には久しぶりに支部総会を開催する。特別講演は自身の経験からサイバーセキュリティに関する内容を予定している。

高橋英子（青森支部）：会員数46人。一昨年より青森県女医会とセミナー（HIVワクチン関連）を開催している。昨年から総会・懇親会を開催し、会員向けに女性の健康と漢方医学についての講演を行った。

小関温子（神奈川支部）：コロナのワクチンを接種してからずっと体調が悪かったので、支部の活動ができていなかった。2007年に神奈川支部で定時総会を開催した頃は活発に活動していたが、だんだん衰退してしまった。先日久しぶりに役員会を開催し、9月に支部総会を開催予定である。

東あかね（京都支部）：京都府立医科大学ワークライフバランス支援センターアドバイザーになったことがきっかけで2年前に入会した。南海トラフ地震が起こると予測されており、トイレなどの設備について考えていきたい。



受賞者の言葉

第8回山崎倫子賞

不育症における末梢血・子宮内膜NK細胞接着因子と機能発現の解明



兵庫医科大学医学部
産科婦人科学講座 講師

山谷文乃

この度は日本女医会第8回山崎倫子賞を受賞させていただきましたこと、大変光栄に存じます。日本女

医会会長はじめ、理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は、弘前大学医学部産科婦人科で子宮内膜症の病態とNK細胞異常の関連について研究を開始し、学位を取得致しました。現在は兵庫医科大学で生殖医療を中心に臨床医として勤務しておりますが、もともと身体の仕組みや疾患の病態などに関心があり、研究にも興味を持っており、その後も継続して生殖と免疫について研究を継続しておりました。2022年に米国のRosalind Franklin大学に留学し、不育症と末梢血NK細胞接着因子の関連について研究し、研究の楽

しさを経験してきました。

これまで当教室では、不育症とNK細胞の関連性について継続して研究しておりました。不育症とは、妊娠成立するにも関わらず流産を繰り返してしまう疾患です。不育症のリスク因子の半分以上は不明といわれていますが、その中で免疫異常が関与しているのではないかと報告されています。本来、NK細胞は細菌など外敵に対し細胞傷害性に働きますが、子宮内膜では受精卵を保護する働きをされると言われています。しかし、不育症の子宮内膜ではNK細胞が受精卵を保護せず攻撃する方向に働いてしまうと考えられます。今回申請しました研究は、NK細胞が末梢血から子宮内膜に遊走する際にはたらくNK細胞表面に発現する接着因子の異常が不育症に関連するのではないか、ということ仮説として研究する予定です。末梢血での接着因子発現は留学中に行っておりましたが、今回は子宮内膜で発現を調査したいと考えています。

臨床と研究の両立に悩んでいたところ、このような栄誉ある賞をいただき、とても励みになりました。今後も臨床だけでなく、研究にも邁進していきたいと思えます。

第44回 学術研究助成

ErbB受容体を標的としたアルツハイマー病の病態解明



関西医科大学神経内科学講座 病院助教
村上 綾

この度は第44回学術研究助成を賜り、大変光栄に存じます。日本女医会会長をはじめ、理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

私は2012年に関西医科大学神経内科学講座に入局し、大学病院や市中病院で研修を行った後、2015年に大学院に進学し、出産・育児による中断も経て、神経変性疾患の臨床病理学的検討を中心に研究を継続してまいりました。2021年には、二人の未就学児を連れて三人で渡米し、Mayo Clinicの神経病理学教室にて育児と研究を両立させながら、ヒト剖検脳を用いた病理研究を行いました。

神経変性疾患の一つであるアルツハイマー病は、認知症の最も頻度の高い原因疾患であり、その病態機序の解明や新規治療法の開発は喫緊の課題です。これまでに神経栄養因子がアルツハイマー型認知症に対して疾患保護作用があることは知られていますが、そのメカニズムは未解明です。今回、我々は病理学的なアプローチを用いて、アルツハイマー病における神経栄養因子の神経保護や認知機能改善効果の

メカニズムを解明することを目指しています。

今回の採択を励みに、今後も研究に邁進してまいりたい所存です。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

第9回 溝口昌子賞

溝口昌子賞を受賞して



弘前大学医学部附属病院 助教(診療講師)
皆川 智子

この度は第9回溝口昌子賞を賜り、大変光栄に存じます。日本女医会会長の前田佳子先生、理事および選考委員の先生方、青森支部：村岡真理先生、富山月子先生はじめ日本女医会会員の先生方に厚く御礼申し上げます。

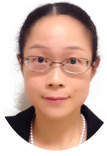
現役の春、弘前大“桜散る”、東北大農学部に進学するも、バブル崩壊後の理系女子就職難に直面、“やはり医師になりたい!”と弘前大に再入学しました。皮膚科専門医・学位取得後、助教として頑張っていました。第1子を妊娠、産前5週で退職になりました。夫の実家で育児に専念し、夫の留学に伴い渡米しました。John R. Stanley先生に師事されていた山上 淳先生(東京女子医大 皮膚科学講座 准教授)のご高配でPennsylvania 大皮膚病理部：Rosalie Elenitsas先生のもとで半年研修ができました。1歳半の息子をひろだい保育園(院内)に預け、医員として復帰、科研費(若手B)を獲得しても助教に戻れませんでした。

2013年4月、第2子産後10週で復職、心身ともに疲弊していました。5月総会で第2回提言論文優秀賞を頂き、娘をおぶって帰ろうとしたとき、皮膚科の馬場先生や塚田先生や女医会の先生方に、“先生はよく頑張っているよ”とお声がけ頂いて心が温まりました。2014年度学術研究助成を頂き、日本医師会女性医師バンクのcoordinateで、2016年4月検査部の助教に採用されました。

溝口昌子先生は聖マリアンナ医科大学皮膚科教授として、教育、診療、研究に抜群のリーダーシップを発揮されたlegendです。ご遺志を継ぎキャリア支援や細々ですが皮膚科診療を続けてまいります。コロナ禍はICDを務め、2024年4月から当院の産業医として働き方改革に取り組んでいます。臨床検査専門医として臨床検査室の品質(生活の質、医療の質、検査の質)維持に努めます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

第6回 山本纈子賞

山本纈子賞を受賞して



名古屋大学大学院医学系研究科
神経内科学 助教

飯田 円

この度は第6回山本纈子賞を賜り、幸甚に存じます。日本女医会会長をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。山本纈子先生は名古屋大学神経内科学で学ばれており私の大先輩でいらっしゃいます。大変光栄であるとともに山本先生のご遺志を感じ身の引き締まる思いです。

私は愛知県の安城更生病院で臨床研修を行い、2010年より名古屋大学神経内科学で神経難病の一つである球脊髄性筋萎縮症（SBMA）の病態解明や治療開発に関する研究を開始しました。大学院卒業後、学術振興会の特別研究員を経て、2019年から米国に留学し薬物依存症の研究に携わ

りました。2021年から名古屋大学神経内科学に戻り、再びSBMAの研究を継続しております。今回、2023年6月にボストンで開催されたGordon conferenceへの出席に際しまして山本纈子賞として助成をいただきました。ConferenceではSBMAにおけるオリゴデンドロサイトの病態に関する研究について発表いたしました。この研究は米国に留学中に習得した神経細胞のシングルセル解析の手技を活かして行った研究です。米国やイタリアにあるSBMAの研究室のボスに私の研究についてコメントをいただくことができました。またその後米国の研究室と共同研究が一つ立ち上がり大変有意義な経験となりました。

今回の受賞を機に日本女医会のホームページや会報を拝見し、イキイキと前向きに働かされている女性医師が全国にたくさんいらっしゃることを知り大変励まされました。実験はうまくいかないことのほうが多い上に、帰宅後は家事育児に追われており慌ただしい毎日ですが、今後も精進して参ります。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

東京都支部連合会主催懇親会

東京都支部連合会 会長 渡邊弘美

隔年に行われる本部の選挙の年には総会が東京で開催されます。それを受けて、東京都支部連合会が懇親会を担当するのが恒例になっております。コロナ禍で控えていた総会懇親会が、前回より対面で開催されることになりました。昨年の栃木での素晴らしいエクスカッションを思い出しつつ、はて、時間的・空間的に活かせるエクスカッションって何かしらと心を砕きました。そして、地理的には今回の総会会場と同じ方向で、時間的にはお仕事を終えた後で、また地方の先生方の参加も極力可能なようにと配慮いたしました。さらに、特別な個室で東京の景色と食事を楽しめるというたい文句に惹かれ、非日常な体験ができる「東京湾シンフォニークルーズ～19時から21時半までのディナークルーズ～」を企画いたしました。

日の出桟橋からの出航で、豪華客船の雰囲気を感じ出すクルーズ船への乗船は、ちょっとした修学旅行気分でした。参加者は28名。まだ明るい夕暮れの景色の中を出航し、きらびやかな東京の夜景に包まれながら、ワインにフランス料理を堪能致しました。

このクルーズは東京湾をハート形に描く航路で、個室にはデッキがついており、食事の合間に夜風に吹かれながらレインボーブリッジの真下の景色、お台場、大井ふ頭の輝くような光のパレード、羽田空港の滑走路や離発着の飛行機との遭遇を楽しみました。東京の新しい名所であるライトアップされた東京ゲートブリッジの下をくぐるときの荘厳な美しさは、日常の疲れを癒してくれる素晴らしいさでした。これまでにあまりお見掛けしなかった先生

方のご出席や、御病気から回復され元気なお顔をお見せくださった先生のご出席など嬉しいことも多々ありました。

コロナ禍以前の2018年に東京都支部会が請け負った総会エクスカッションは「クルーズenjoy バスツアー～東京五輪コースをバスと船で行く」であったと記録にありました。2018年と2024年の2回の懇親会にて、昼と夜の東京湾の美しさをエンジョイしていただいたことになりました。

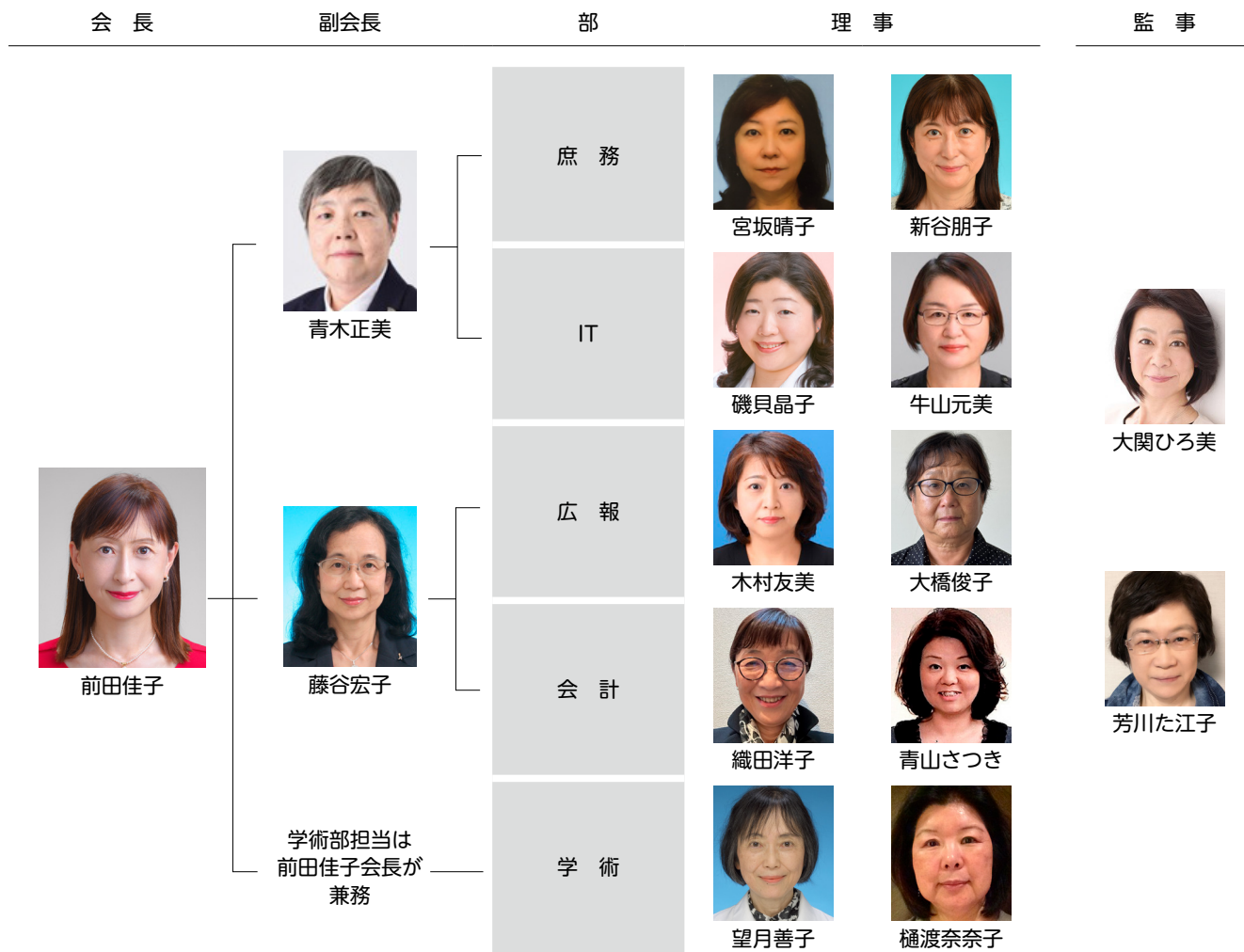


◀シンフォニーの前で
記念写真

▼東京ゲートブリッジ



2024年度 新役員紹介



新役員ご挨拶

新理事就任のご挨拶

青山さつき

この度、大阪支部長の杉本睦子先生よりご推薦頂き、日本女医会理事に選任いただきました、大阪支部の青山さつきです。長い歴史と品格ある日本女医会で、役員として活動させていただくことを大変光栄に感じております。私は、1988年に兵庫医科大学を卒業し、大学を含めいくつかの病院で研修後、2001年に地元である大阪府寝屋川市において眼科医院を開業し現在に至っております。父も医師会員であったことで、開業後3年目からは地元医師会でのお仕事に携わり、今は副会長の職に就いております。また、寝屋川市教育委員を8年

務めたことで、学校教育や社会教育等という医療とは違う分野の視野が広がった経験は大変貴重でした。個人の趣味では上達しないゴルフと、同学年で結成しコンサートもしている合唱のいずれもが、日々のストレス解消となっております。何分わからないことばかりですが、日本女医会が掲げておられるさまざまな公的的事业を通じての社会貢献について、しっかり勉強していき、諸先輩方のご迷惑にならぬよう精進してまいりますので、ご指導のほどどうぞよろしくお願いいたします。

新理事就任のご挨拶

新谷朋子

この度理事に選任いただきました北海道支部の新谷

朋子です。

昭和62年札幌医大を卒業し、耳鼻咽喉科学教室に入局して平成10年に開業しました。

平成4年に北海道女性医師の会が発足して一員として活動していく中で故濱田啓子先生にお誘いいただき、日本女医会に入会しました。バイタリティー溢れる濱田先生が積極的に日本女医会や世界女医会について北海道の会員に紹介されていました。令和元年5月の札幌の総会開催に向けてエクスカージョンもご準備されて楽しみにされていましたがその半年前に急逝されました。慣れないながらも濱田先生のご遺志を継いで皆一丸になり総会を担当しましたが、全国から日本女医会の先生方にご参加いただき大変励ましていただいたことを心から感謝しております。

濱田先生の情熱には及びませんが、会長はじめ理事の先生方、会員の皆様にご教示いただき伝統ある日本女医会の仕事を行なっていきたいと思っております。

どうぞよろしく申し上げます。

新理事就任のご挨拶

大橋俊子

この度理事として初めて選任いただきました、栃木支部の大橋俊子です。歴史があり、社会的に様々な活動をされている日本女医会で、役員として務めさせていただく機会を得たことを大変光栄に思っております。

私は、昭和59年に滋賀医科大学を4期生として卒業後、東京慈恵会医科大学整形外科学教室に入局、整形外科医として研鑽後、平成8年度から栃木県職員として本庁勤務、公衆衛生医として保健所に勤務し、令和3年度をもって栃木県を退職しました（保健所長として退職前の数年間は、COVID-19の対応に身を削った感じでした）。現在、特別職非常勤の栃木県保健所参与として、東京から栃木県に通勤しています。

臨床医としての経歴より、公衆衛生・保健福祉行政分野が長くなり、この経験をいかして、諸先生方のご指導のもと、微力ではありますが、日本女医会のために尽くしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

また、ライフワークとしてパラスポーツに関わっております（初級パラスポーツ指導者・パラスポーツ医）。障がいのある方々が、レクリエーションから競技スポーツまで楽しく一緒に謳歌できればと思っております。まだ

まだパラスポーツは発展途上ではありますが、障がいの有無に関わらず、地域の誰でも参加できるパラスポーツの発展に寄与できればと思っております。

新理事就任のご挨拶

織田洋子

この度日本女医会の理事に新しく選任いただきました、佐賀県支部の織田洋子です。

私はこの重要な役割を担うことになり、大変光栄に存じております。これまで日本女医会は女性医師の地位向上と医療現場での女性の活躍を支援するために貢献してきました。私たちの使命は性別に関係なくすべての医師がその能力を最大限に発揮し、患者に最高のケアを提供できる環境を整えることだと考えます。微力ではありますが、これまでの経験を活かし女性医師が直面する困難に対処し、より良い職場環境を実現できるよう尽くしたいと思っております。女性医師一人一人が性別に甘んじることなく医師としての覚悟と責任を持ち自分の可能性を最大限に発揮し社会の公器となり、患者にとっても最善の医療が提供できるよう支援してまいります。この責任あるポジションを任されたことを心より感謝し、会員の皆様のご指導を仰ぎながら、役割を果たす所存でございますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

監事に就任して

芳川た江子

このたび、公益社団法人日本女医会の監事に就任いたしました大阪支部の芳川た江子と申します。

私は、2018年度から3期6年間日本女医会の理事を経験させていただきました。この6年間の間、庶務部長を4年間、長寿社会福祉委員会の委員長を2年間務めました。また、日本女医会120周年の記念行事には、深くかわらせていただき大変光栄に思っております。

これらの経験を生かして、今期は監事として、公益社団法人日本女医会の運営が滞りなく遂行されるように、理事の職務執行の監査や会計の監査を大関監事と協力して行ってまいりたいと思っております。

皆様、よろしく願いいたします。

第69回定時総会公開講演会抄録

税の取り方と使途 ～医療など社会保証充実の財源～

元立正大学法学部教授・税理士 浦野広明

動画 https://www.youtube.com/watch?v=ep8_mrXGHL4

資料 <https://bit.ly/3wpkFXv>

税理士にもいろいろな人がいるが、私は税務署の立場ではなく納税者の立場に立って仕事をしている。税金の取り方と使い方を知ることが政治を知ることであり、納税者の権利である。

憲法が考える税負担は、第14・13・25・29条に基づいて「応能負担原則」があり、所得に応じて負担するが、なんの所得によるのかを考える必要がある。所得課税（所得税・法人税など）だが、勤労所得に対しては税負担を小さくし、資産所得は大きくすべきである。応能負担原則の中心は総合累進所得課税制度で、これに代わる公平で民主主義的な税制はない、と考えられている。

現在日本は戦争終結時を上回る借金を抱えており、GDP比256.5%にまでなっている。これは社会保障費が削られる原因となっている。医療費の窓口負担を行なっているのは日本とアメリカぐらいである。国の歳出で軍事費を増やしているのも、これも社会保障費を削減する要因となっている。

日本の消費税は8～10%でヨーロッパ諸国より低いと思っている人が多いが、実際には生活必需品には低税率が採用されているので、日本ほど高い消費税を払っている国はない。結果として国の歳入に占める税収が非常に多く61%を占めている。消費税は竹下内閣であった1988年に消費税法が成立して導入された。これはその前の中曽根内閣が消費税を導入しないことを公約に掲げて300以上の議席を獲得したことを利用して成立させたものである。

輸出品の売り上げにかかる税率は0%である。トヨタは売り上げ14兆、75%が輸出による売り上げなので、税金がかかるのは25%だけ。輸出にかかる費用は還付されるため、結果として収める税金より還付

金の方が多くなるという仕組みが成り立っている。税金を取るべき大企業からは取っておらず、所得の多い上位20社は30%払うべきところ14%しか払っていないという合法的税回避が行われている。

自民党の政治資金パーティ裏金問題は収支計算書に記載されていなかった。法人税・所得税・消費税の脱税であり、告発されなくても国税庁が動くべき案件である。しかし日本の国税庁は「強きを助け弱きを挫く」体質があり、国会議員には甘い。民間への税務調査は犯罪者を調べるような調査を行なってはいけないことになっており、前もって納税者に調査の通知と調査の理由を開示する手続きが必要である。憲法（第31・13条）を使って税務調査の適正手続きを要求していくことが必要である。第72国会の衆議院大蔵委員会では「中小業者に対する税制改正等に関する請願」を全会一致で採択しており、この内容を課税庁に守らせることが重要。

憲法9条を持っている日本の果たす役割は大きく、憲法を生かして悪法を阻止していくことが大切。応能負担原則では勤労所得については軽くするべきで、医療に対する不当な攻撃をやめさせることも大切。



公益社団法人日本女医会 第69回定時総会議事録

2024年5月19日(日)午前11時00分より、浜松町ビルディング22FシミックL&D(東京都港区芝浦1-1-1)に於いて、第69回定時総会が開催された。今回はハイブリッド開催であり、ZOOMミーティングによるオンラインで参加した会員にも議決権が与えられた。

開会の辞

青木正美副会長より、開会の辞が述べられた。

司会の芳川た江子理事より2024年5月19日現在の会員総数879名に対し、出席者数44名、記名委任者数486名であり、公益社団法人日本女医会定款第18条、第19条の規定により、出席が会員総数の2分の1以上に達しており、本総会が成立する旨の報告があり、開会を宣した。

黙祷

2023年度3月31日までに物故された会員8名の方々の冥福を祈り、黙祷を捧げた。

会長挨拶

議案の審議に先立ち、前田佳子会長より挨拶があり、120周年記念事業の一環として、日本女性医師デー登録した旨を報告。また能登半島地震や戦争により犠牲者が絶えず、私たち女性医師は、国民の命を守る立場である医療者として常に軍拡を許さず、平和を求めていくことが必要である。日本女医会はこれからも平和を求める発信を続けていく決意を訴えた。

報告

- 1) 藤谷宏子副会長より、「第69回定時総会資料」に基づき会員動静、第68回定時総会での審議の結果、理事会役員、理事会開催日、部会開催日、各賞の選考委員会開催日、支部代表・副代表の訂正等に関する報告が行われた。
- 2) ナショナルコーディネータの前田佳子会長より、本年7月の11日から13日にフィリピンのセブ島で開催される西太平洋地域会議へ参加の呼びかけがあった。

引き続き議長団、及び議事録署名人の選出に移った。

議長団選出

司会より参加者に対して議長団、並びに議事録署名人の推薦について会長一任を諮ったところ、異議がなかったため、議長団として浅見豊子会員、長井桂会員、議事録署名人に山上実千子会員、池田康子会員が指名され、拍手多数で異議なく選出された。議長団は議長席についた。

議事

【承認第1号】2023年度事業報告承認の件

青木正美副会長より、「2023年度事業報告」に基づき説明が行われた。

【承認第2号】2023年度決算報告書承認の件

藤谷宏子副会長より「2023年度収支計算書」に基づき説明が行われ

た。

【会計監査報告】

村上京子監事より、2024年4月16日に慎重かつ厳正な会計監査を実施し、その結果、適法かつ正確であることを確認した旨が報告された。

以上の承認事項と報告につき、議長は承認第1号、及び第2号について賛成者の挙手を求めたところ、挙手多数(2分の1以上)と認められたため、承認第1号、及び第2号は原案の通り承認された旨を述べた。

【承認第3号】役員選挙の結果及び新役員の承認について

馬場安紀子選挙管理委員長に代わって小出彩香選挙管理委員から、今回は各地区すべてにおいて理事立候補者が定員内であったため無投票選挙となったこと、監事1名は立候補、外部監事1名は第6回理事会で承認されたことが報告された。

その後、議長は役員承認について賛成者の挙手を求めたところ、挙手多数(2分の1以上)と認められたため、下記の2024年度役員が承認されたことを宣した。

(理事)

新谷 朋子(北海道支部)
樋渡 奈奈子(宮城支部)
磯貝 晶子(神奈川支部)
大橋 俊子(栃木支部)
前田 佳子(神奈川支部)
宮坂 晴子(埼玉支部)
望月 善子(栃木支部)
青木 正美(中央支部)
木村 友美(豊島支部)

青山 さつき（大阪支部）
藤谷 宏子（大阪支部）
織田 洋子（佐賀支部）
牛山 元美（神奈川支部）

〈監事〉

芳川 た江子（大阪支部）
犬飼（大関） ひろ美
（外部監事）

【報告第1号】2024年度事業計画の件

青木正美副会長より、定時総会資料「2024年度事業計画」に基づく説明が行われ、2023年度末に内閣府に提出したことが報告された。

議長は報告第1号について挙手による質問、意見を諮ったところ、挙手がみとめられなかったため報告第2号に移った。

【報告第2号】2024年度予算の件

藤谷宏子副会長より「2024年度収支予算書」に基づき説明が行われ、2023年度末に内閣府に提出した旨の報告があった。

議長は報告第2号について挙手による質問、意見を諮ったところ、挙手がみとめられなかったため報告第3号に移った。

【報告第3号】「日本女性医師デー」開催の件

前田佳子会長より、4月7日に行われた日本女性医師デー開催についての報告があった。

議長は報告第3号について挙手による質問、意見を諮ったところ、

挙手がみとめられなかったため報告第4号に移った。

【報告第4号】次期及び次々期総会開催地に関する件

前田佳子会長より、次回の第70回定時総会は2025年5月18日に神奈川において開催される予定である旨が述べられた。

また次々期（2026年）の候補地は東京であり、2027年は大阪開催を検討いただいている旨を述べられた。

議長は報告第4号について挙手による質問、意見を諮ったところ、挙手がみとめられなかったためすべての報告に賛同が得られたとし、すべての審議、及び報告が終了した旨を述べ降壇した。

表彰

1) 学術研究助成授賞者

山谷文乃（兵庫医科大学医学部産科婦人科学講座・講師）

村上 綾（関西医科大学神経内科学講座・病院助教）

<第8回 山崎倫子賞>

山谷文乃（兵庫医科大学医学部産科婦人科学講座・講師）

<第9回 公益社団法人日本女医会 溝口昌子賞>

皆川智子（弘前大学医学部附属病院・診療講師）

<第6回 公益社団法人日本女医会 山本纈子賞>

飯田 円（名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学・助教）

2) 功労会員 中田恵久子（埼玉支部）

宮坂晴子理事が中田会員のメッ

セージを代読した。

3) 永年会員 全22名

永年会員を代表して渡邊弘美東京都支部連合会長より挨拶があった。

会長、副会長の選出と発表

表彰の後、理事は直ちに別室へ移動し、定款第15条に基づき互選の結果、会長に前田佳子、副会長に藤谷宏子、青木正美が選出され、臨時理事会の席上において承認された。

その後、総会会場において小出選挙管理委員から、選挙管理委員の紹介が行われた後、会長、副会長選挙の結果と臨時理事会での承認が発表され、今年度の選挙管理委員会を解散した。

閉会の辞

青木正美副会長より、閉会の辞が述べられた。

午後3時50分閉会

議事録が正確であることを証するため議長及び議事録署名人の捺印
2024年5月19日

議長 浅見豊子

議長 長井 桂

議事録署名人 山上実千子

議事録署名人 池田康子

第10回

北から
南から

ピラティスで背筋をピンと

栃木支部
西山 緑

運動は小さい頃から苦手でした。そんな私も運動の大切さに気づき50歳で社交ダンスを始めました。社交ダンスは筋力と体力を必要とするものでした。7年以上習ってもなかなか上達しないので、同じダンススタジオのエクササイズに参加することにしました。しかし初レッスンのピラティスとの出会いは最悪でした。基本中の基本の「ハンドレッド」は100回呼吸しながら腕を上下させるのですが、姿勢をキープすることも出来ません。さらに「ジャックナイフ」をやってみた時は、天井に向けて挙げた足を一気に頭の後ろに下ろす際に右脇腹に変な力が入ってしまって、筋を痛めてしまったのです。半年くらいは右脇が痛くて、「ジャックナイフ」の時にはマットに寝たまま休んでいました。それでも3年ほど経つと「ハンドレッド」「ジャックナイフ」も無理なくできるようになり、見様見真似で一応ポーズを取ることができるようになりました。しかし、ピラティスの本質を全く分かっていませんでした。

そこで4年前のコロナ禍では時間もありませんでしたので、通信教育でピラティスインストラクター養成講座を受講しました。教本でピラティスを学び、基本原則が①呼吸②集中③コント



ロール④センタリング⑤流れ⑥正確さであることを初めて知りました。これまで分からなかったことが「目からうろこ」でした。そして、今ではピラティスを指導する立場になりました。

今年で65歳になりましたが、ピラティスで体幹のインナーマッスルを鍛えて背筋をピンと保つことができるようになり、手足を自由にコントロールして柔軟に動かせるようになりました。運動の大切さを実感する毎日です。

日本女医会はピンクリボンウォークを応援しています

ピンクリボンウォーク 2024

乳がんの啓発を目的としたピンクリボンウォークは、今年で第20回を迎えます。
オンラインイベントは10月1日～11月30日、
フィナーレイベントは11月30日に開催されます。



2023年度女性の健康支援事業委員会 online 公開講演会

「LGBTQ x 医療 ～『多様な性の相談窓口』に寄せられる困り事と今日的課題～」

理事 磯貝晶子

講演要旨

LGBTQx (Lesbian Gay Bisexual Transgender Questioning x-gender)、性的マイノリティについて、日本でも今年7月に性転換手術なしの戸籍性別変更が初めて認められるなど、徐々に認知が進んできました。しかし、一人ひとりが抱える事情は様々で、本人の努力だけでは解決できないことがあり、私たち女性医師が関わる医療現場でも多くの問題が存在しています。今回は原みな汰先生(NPO法人共生社会をつくる性的マイノリティ支援全国ネットワーク共同代表理事)と、岩井紀穂先生(VISION～Transgender代表、スカイツリーラインLGBTQ FRIENDS代表)のお二人に、LGBTQxの基本知識と医療現場で起こっている困り事と課題について、ご本人が実際に受診・入院した時の体験も含めてお話しいただきました。講演会は2024年2月14日にZoomで収録し、3月1日から3月8日までオンライン公開しました。

LGBTQの子供・若者調査では自殺念慮は10代全国調査と比較すると3.8倍、自殺未遂は4.1倍と高率です。多くのLGBTQx支援は知り合いや友人の自死(未遂含む)をきっかけに、やむにやまれず始まる事が多く、また、啓発・支援活動半ばで心折れること(バーンアウト)

もあるそうです。当事者が一人で問題を抱えて悩むことがないよう、原先生・岩井先生の団体では相談を受け、問題解決のための支援を行っているそうです。

病院では、健康診断が受けにくい、検査着の色が自認の性別と合っていないものを強要される、受付時の保険証提示や問診票の性別欄の記入、自認の性別の待合室・更衣室を使わせてもらえない、婦人科で経膈エコーを受けなくてはならない、性感染症・感染歴について言いにくい、トランスジェンダー女性が女性ホルモン注射を断られるなどの問題があるそうです。中にはゲイであることを医師に伝えたら、「そんな不道德なことはいけない」と言われたケースもあるとのことです。LGBTQの正確な知識を持つ精神科医が少ないため、ジェンダークリニックが少ないことも問題の一つです。

岩井先生も入院された時、看護師長の判断で戸籍の性別の女性部屋に入らざるをえなかったり、男性部屋に入院した時には他の入院患者からカーテンの中をのぞかれたりと

怖い思いをし、早期退院をせざるを得なかった経験があるとのことでした。

今後も研修会を行って、アライ(ally(英)同盟・支援を語源とする言葉、LGBTQxの味方や理解者、支援者のこと)を増やす、またLGBTQxフレンドリーバッジを白衣につけたり、医療機関の受付にフレンドリーステッカーを貼ったり、病院内に相談窓口を開設したりしてLGBTQxを受け入れる意思を表明し、相談しやすい環境を整えていけるよう、日本女医会も協力していきたいと思います。

公益社団法人日本女医会 女性の健康支援事業委員会 online 公開講演会

LGBTQ x 医療

「多様な性の相談窓口」に 寄せられる困り事と今日的課題

2024年 **3月1日(金) 12:00** ~
オンライン配信 3月8日(金) 12:00
 (YouTube) 視聴
無料

*視聴ご希望の方は日本女医会のホームページのイベント予約ページにてご登録ください。配信日時が近づきましたらEメールにて視聴用URLをお送りいたします。

<講師> **原みな汰先生 他**
 NPO法人 共生社会をつくる性的マイノリティ
 支援全国ネットワーク(共生ネット) 共同代表

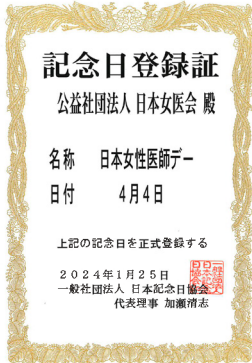
個人の事情によって「LGBTQの課題」は大きく異なります。本講座では、全国の相談窓口寄せられた事例をベースに、さまざまな側面から「多様な性」に関する啓発活動を取り上げ、どのような対応が望ましいかを共に考えます。



〒151-0051
 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-19
 日テレビル千駄ヶ谷202
 tel 03-6447-0820 fax 03-6447-0821
 Email office@jmwa.or.jp

<主催・お問い合わせ>
公益社団法人日本女医会

日本女性医師デー制定記念イベント報告



4月4日は日本女性医師デーです

2024年4月7日にTKP市ヶ谷カンファレンスセンターにて記念イベントを開催いたしました。

<https://www.youtube.com/watch?v=OPoA4pwjpMM>

日本女医会は2022年に創立120周年を迎え、会員の皆様とともに祝うことができました。今回、120周年記念事業

の一環として、「日本女性医師デー」を日本記念日協会に登録申請し、承認されました。

米国では1849年にアメリカ人女性として初めて医学の学位を取得し、女性医師の道を切り開いたエリザベス・ブラックウェルの誕生日2月3日をNational Women Physicians Day (全国女性医師の日)とし、医療分野における女性医師の先駆的な業績と継続的な貢献を称えています。

日本でも独自の女性医師デーを設定したいと考え、初めて国家資格を取得して女性医師の道を開いた荻野吟子さんの西暦の誕生日である4月4日を選ばせていただきました。荻野吟子から始まった女性医師のこれまでの活動を讃えるとともに、2018年に発覚した女子学生の医学部入試差別を記憶にとどめ、まだまだ道半ばである医療界における男女平等を推進してゆくきっかけとしたい、と決意を新たにいたしました。

記念イベントの第一部では「東京女子医科大学創設者吉岡彌生を語る」と題して講演を行い、第二部では荻野吟子の生涯を映画化した「一粒の麦 荻野吟子の生涯」を上映いたしました。日本で最高齢の女性監督である山田火砂子さんからメッセージをいただきました。

「日本女性医師デー」をきっかけに、これまで以上に女性医師の活躍を応援していただきたくよろしく願いいたします。

以下、山田監督からのメッセージ

この度は「日本女性医師デー」制定とのこと、皆様に心からお祝い申し上げます。

私も92歳になり、男性社会の映画業界で52年間戦い続けて、70歳より映画監督になり、両親が知的障がい者のあたたかな家族を描いた最新作『わたしのかあさん 一天使の詩』を完成し10作品の映画を監督しました。

『一粒の麦 荻野吟子の生涯』は前々作として作りましたが、当時、女性は人間扱いされなかった時代に十数年かけて、艱難辛苦の末に日本初の女医になった荻野吟子さん、その道のりはどんなにか長い道りだったでしょう。今でこそ、埼玉県三大偉人の荻野吟子さんですが、日本は長い長い男尊女卑の時代を未だ抜け出せずにいます。

社会が女性に開かれたものになることは、女性のみならず社会全体がより良くなる事につながるはずです。「日本女性医師デー」この記念日から広く女性医師誕生の意義を知らしめ、女性の権利と責任を高めるために必要な取り組みを促進する機会となる事を願っております。

2024年4月4日
山田火砂子

公益社団法人日本女医会

((理事会議事録))

2023年度第7回理事会議事録

1. 日時・場所

1. 日時 2024年3月16日(土)
午後3時30分～午後5時30分

2. 場所 ZOOMによるオンライン会議

3. 出欠席者

1) 出席者

理事 前田佳子
藤谷宏子
牛山元美
木村友美
野村明子
宮坂晴子

青木正美
磯貝晶子
大谷智子
塚田篤子
樋渡奈奈子
望月善子

芳川た江子

監事 大関ひろ美

2) 欠席者

監事 村上京子

2. 継続審議事項

1. 第69回定時総会について(継続)
・1月の理事会において、未決もしくは

- はその後変更になった、今月末発送予定の総会案内資料案の審議が行われ、スケジュール案、定時総会及び支部本部連絡会案内案、対面申込書案、対面申込書裏面会場案内案、エクスカッションチラシ案、エクスカッションチラシ裏面ホテル例案、定時総会講演会チラシ案が確認、承認された。
- ・2023年度功労会員・永年会員候補者について、代表候補者の検討と、会費未納の候補者には連絡する旨が確認された。
 - ・前田会長より、支部本部連絡会用支部代表連絡先について、担当支部長に出席の声掛けをするよう、役員に対して要請があった。
 - ・前田会長より、2025年5月18日第70回定時総会予定地について、早急に確認する旨が述べられた。
- 2. 2024年度役員選挙について** (承認)
前田会長より、立候補者が定員以内となったため、無投票選挙となった報告と、代表理事及び副会長の選出方法案が述べられ、今年は総会時に選挙用紙による投票で決定する案が承認された。また、略歴掲載の現職の書き方を統一するため、立候補者に確認する旨が述べられた。
- 3. 「日本女性医師デー」の開催について** (承認)
前田会長より、イベント予定の詳細報告があった。
- 4. 溝口昌子賞応募資格等について** (承認)
前田会長より、来年度の溝口昌子賞応募条件の見直しが提案された。大谷理事より、大学によって役職名や基準が違うため一律に決められない、学術研究助成の応募資格は45歳未満であり、頑張っている中高年女性医師のキャリアアップを応援する貴重な賞であるという指摘があった。また、望月理事より、学位を持っていることを条件に加えるべきという提案があり、45歳以上・学位保持者という条件を付け加えることが承認された。
- 5. 第17回キャリア・シンポジウムについて** (継続)
木村理事より、例年通りのスケジュールで行う予定であること、講師候補がまだ絞れていない状況であることが述べられた。
- 6. 第15回軽井沢セミナーについて** (継続)
磯貝理事より、軽井沢セミナーの計画状況が述べられた。
- 7. 2024年度ブロック懇談会について** (継続)
宮坂理事より、引き続き会長が交渉中である旨が述べられた。
- 3. 審議事項**
- 1. 2024年度事業計画案修正について** (承認)
前田会長より、女性医師デーの事業の追加と委員会の新設が提案され、承認された。
- 2. 賛助会員(個人)承認について** (継続)
個人からの初の入会申込があり、青木副会長より、紹介者もしくは入会目的を尋ねるべきという意見が出され、尋ねて再検討することになった。
- 3. 2024年1月・2月会計報告承認** (継続)
塚田理事より説明があり、2024年1月、及び2月の会計報告と、ボランティア預金からの能登半島地震被災地(輪島市、珠洲市)への寄付報告があり、承認された。
- 4. 2023年度第6回理事会議事録承認** (承認)
宮坂理事より説明があり、2023年度第6回理事会議事録が承認された。
- 5. その他**
- 動画広告について** (継続)
・前田会長より、現行の趣意書は、会誌に掲載する広告と、会誌発送時に同梱するチラシのみを扱っているが、日本女医会のホームページに掲示する、公開講演会の前後に会場で流す動画広告について、次回の理事会で検討したい旨が述べられた。
・樋渡理事より、現行の趣意書の発行経費と配布対象についての質問があり、調査・検討することとなった。
- 4. 報告事項**
- 1. 各部、NC報告**
- 1) 庶務部報告**
芳川理事より、新入会員と会員動静についての報告があった。
- 2) 広報部報告**
樋渡理事より、会誌251号の入稿状況などの報告があった。
- 3) 学術部報告**
大谷理事より、第44回学術研究助成、第9回溝口昌子賞、第6回山本繭子賞選考結果の報告があった。
- 4) I T部報告**
磯貝理事より、定時総会に向けて準備中の旨が述べられた。
- 5) ナショナルコーディネータ報告**
前田会長より、西太平洋地域オンライン会議(3/30)の開催予定報告があった。
- 2. 各委員会報告**
- 1) 長寿社会福祉委員会**
芳川理事より、2024年度も例年通りのスケジュールで行う予定であることが述べられた。
- 2) 女性の健康支援事業委員会**
・樋渡理事より、公開講演会とアンケート結果についての報告があった。
・レインボーバッジを定時総会などで配布することが検討された。
・4月1日からアーカイブ公開することになった。
- 4) 小児救急事業委員会**
藤谷副会長より、「どうしよう子どもの救急」小冊子についての使途報告があった。
- 5) HP制作委員会**
前田会長より下記の掲載報告があった。
- ・『乳腺外科医師えん罪事件』へ支援の呼びかけ
 - ・医療崩壊を防ぐための医師増員を求める請願署名
 - ・2023年度女性の健康支援事業委員会online公開講演会開催のお知らせ
 - ・伊藤詩織さんのサンダンス映画祭初監督作品出品
 - ・トランスジェンダーの性別変更に大きな一歩
 - ・令和6年度役員選挙立候補者告知
 - ・五ノ井里奈さんの「国際勇気ある女性賞」選出
 - ・3/15開催CSW68サイドイベント「女性の多次元貧困問題と草の根対応：日本、スリランカ、グアテマラからの洞察」告知
 - ・「若年層の性暴力被害予防月間」ポスター掲示
 - ・赤根智子判事のICC所長選出
 - ・4/14開催「平和を求め軍拡を許さない女たちの会～平和主義を捨てた日本」告知
- 3. 対外的団体活動**
- 1) 国際婦人年連絡会**
前田会長より、この間の常任委員会とセミナー、提出した要望書の報告があった。
- 4. その他**
- (1) 前田会長より、「女性差別撤廃条約選択議定書採択のための署名」が求められた。

- (2) 青木副会長より、3/8に行われた国際女性デー「ウィメンズマーチ東京2024」への参加報告があった。
- (3) 前田会長より、3/8に来賓挨拶を行った「2024年国際女性デー中央大会」の報告があった。

以上

公益社団法人日本女医会
(((理事会議事録)))
2024年度第1回理事会議事録

1. 日時・場所

1. 日時 2024年4月20日(土)
午後3時30分～午後5時30分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出欠席者

1) 出席者

理事 前田佳子	藤谷宏子
青木正美	磯貝晶子
牛山元美	大谷智子
木村友美	樋渡奈奈子
宮坂晴子	望月善子
芳川た江子	

監事 村上京子	大関ひろ美
---------	-------

2) 欠席者

理事 塚田篤子	野村明子
---------	------

冒頭、前田会長から4/7に開催された「日本女性医師デー」の報告があり、協力者、参加者への感謝の意が述べられた。

2. 継続審議事項

1. 第69回定時総会について (承認)
芳川理事より、最新の総会タイムスケジュールの確認及び前泊する役員、会員の移動についての説明が行われた。
2. 第70回定時総会について (継続)
前田会長より、来年は神奈川で行うことが発表された。
3. 第17回キャリア・シンポジウムについて (承認)
木村理事より、10/12収録、11/1から1週間の配信などのスケジュール案が発表され、講師候補としてゲンロン代表の上田洋子氏が提案された。また、宣伝も兼ねてPeatixによる申し込みを試みることも承認された。
4. 第15回軽井沢セミナーについて (承認)
磯貝理事より、最終確定した内容についての説明が行われた。
5. 賛助会員(個人)承認について (継続)

前田会長より、申し込み理由が発表され、複数の役員から「賛助」の趣旨にそぐわないのではないかという意見が出されたため、今回はお断りし、返金する、会長による返答をメール審議にかけることなどが承認された。

6. 動画広告について (継続)

- ・前田会長より、改めて経緯について説明があった。
- ・大関監事より、内閣府公益認定等委員会による「公益認定等に関する運用について(公益認定等ガイドライン)」が紹介され、一般の人が見る動画広告には基準を設ける必要があるとの指摘があった。
- ・基準案は広報部が策定することになった。

7. 2024年度ブロック懇談会について (継続)

宮坂理事より、総会後に検討したい旨が述べられた。

3. 審議事項

1. これからの総会のあり方について (継続)
- ・青木副会長より、次回の開催地が難航した経緯、これまでの総会の総括が語られ、今後総会開催の負担を減らすための意見・提案が理事に求められた。
 - ・樋渡理事より、エクスカッション、懇親会を含めた総会に参加する意義が述べられ、会員の意見を聞きながら、試行錯誤するなどの提案があった。
 - ・宮坂理事より、埼玉の総会の経費負担の説明があり、今後は貸し会議室を使う、懇親会・エクスカッションの開催の有無は地方に任せ、できる範囲でスリム化するなどの提案があった。
 - ・藤谷副会長より、懇親会はできるだけ開催し、エクスカッションは地方の裁量に任せるといった提案があった。
2. 慶弔規定について・連絡方法 (承認)
藤谷副会長より、会員物故の通知は、これまで通り役員全員と支部長に行い、慶弔費の決定は執行部で行う旨の提案があり、内規に記載することが承認された。
3. 事務局からの文書の発行方法について (承認)
藤谷副会長より、対外的な文書の発行は会長名で行うことを徹底したいという提案があり、承認された。
4. 「一般社団法人シュフレ協会」への名

義後援について (継続)

- ・牛山理事より、シュフレ協会についての説明があり、早めの後援が求められた。
 - ・望月理事より、後援に関する規程を設ける提案があった。
 - ・藤谷副会長より、申し込み用紙を設ける提案があった。
 - ・大関監事より、他団体の申し込み例が紹介された。
 - ・前田会長より、名義後援の使い方についての質問があった。
 - ・牛山理事からの回答を待って、メール審議を行うこととなった。
5. 2024年度長寿社会福祉事業オンラインセミナー講師案について (承認)
牛山理事より、3名の候補者案が述べられ、承認された。
6. 2023年度事業報告および決算諸表の監査について (承認)
村上監事より、監査を行い、問題が無い旨の報告があり、承認された。
7. 2024年3月会計報告承認 (承認)
藤谷副会長より説明があり、2024年3月の会計報告が承認された。
8. 2023年度第7回理事会議事録承認 (承認)
宮坂理事より説明があり、2023年度第7回理事会議事録が承認された。
9. 国連NGO国内女性委員会の2024年度の役員登録について (継続)
前田会長より、役員改選後に登録する旨が述べられた。
10. 事務員の給与アップについて (承認)
藤谷副会長より、予め役員でLINE審議を行っていた、1年継続勤務の会計担当事務員の昇給案が承認された。

4. 報告事項

1. 各部、NC報告
- 1) 庶務部報告
芳川理事より、新入会員と会員動静についての報告があった。
- 2) 広報部報告
樋渡理事より、会誌251号の発送状況報告と、北から南からの寄稿協力の呼びかけがあった。
- 3) 学術部報告
大谷理事より、学術研究助成受賞者の所属機関・職名の表記が不統一であるという指摘があった。
- 4) ナショナルコーディネータ報告
前田会長より、今年7月に開催される西太平洋地域会議の詳細が報告され、3日目のデモンストレーションワークショップの出し物について

の提案が呼びかけられた。

2. 各委員会報告

1) 長寿社会福祉委員会

牛山理事より、次回の理事会で講師等を報告する予定が述べられた。

2) 女性の健康支援事業委員会

樋渡理事より、公開講演会の講師の方の団体から入手したレインボーバッジセットと、プライドパレード情報の説明があり、レインボーバッジセットは総会で無料配布し、プライドパレードはHPで告知することとなった。また、今年度の公開講演会日程の確認が行われた。

3) 小児救急事業委員会

藤谷副会長より、「どうしよう子どもの救急」の配布状況についての説明があった。

3. 対外的団体活動

前田会長より以下の報告があった。

1) 国際婦人年連絡会

- ・3/20と4/11に常任委員会が開催され、昨年度は7つのセミナーが開催された。
- ・4/1に岸田文雄内閣総理大臣、木原稔防衛大臣宛に要望書「辺野古米軍新基地建設工事強行に抗議し、中止することを求めます」を提出。
- ・声明文「2024 憲法記念日に寄せて」を今年も提出予定。
- ・5月最終水曜日、総会、全体会議開催予定。

2) 国連 NGO 国内女性委員会

- ・4/14 役員会が開催され、7/4 の総会準備などが行われた。次回、次々回予定は5/10, 6/1。

4. その他

今期が最後となる役員のうち、大谷理事と村上監事から挨拶があった。以上

公益社団法人日本女医会

(((理事会議事録)))

2024 年度第 2 回理事会議事録

1. 日時・場所

- 1. 日時 2024年6月15日(土)
午後3時30分～午後5時30分
- 2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
- 3. 出欠席者

1) 出席者

理事	前田佳子	青木正美
	藤谷宏子	青山さつき
	磯貝晶子	牛山 元美

大橋俊子	織田洋子
木村友美	新谷朋子
樋渡奈奈子	宮坂晴子
望月善子	
監事 芳川た江子	大関ひろ美

2. 新年度開会の辞

1. 会長所信表明

前田新会長より、所信表明が行われた。2024年のジェンダーギャップ指数について触れ、弱者を護るためにどう活動していくか、医療の世界にとどまらず広く社会活動を推進すべく、改めて役員の協力を求めた。

2. 理事・監事挨拶

新理事3名・新監事1名を含む出席役員12名より、自己紹介が行われた。(牛山理事と望月理事は移動のタイミングと重なり自己紹介はできなかった)

3. 継続審議事項

1. 第70回定時総会について (継続)

磯貝理事より、来年度は神奈川で行う予定であるが、9月の神奈川支部会で正式に決定予定。ミニマムな定時総会を想定。懇親会を中華街で実施し、翌日近くの場所での総会を検討。開催場所については現在調査中であるとの報告があった。

2. 動画広告について (継続)

・大関監事より、「公益社団法人日本女医会 広告掲載基本方針案」についての説明が行われた。
・第7条の「商品またはサービス広告の掲載」について、企業理念の記載を義務付けるよう再度提案することとなった。

3. 国連 NGO 国内女性委員会の2024年度の役員登録について (承認)

前田会長より、日本女医会が加盟している国連 NGO 国内女性委員会についての説明が行われ、役員登録について、本年度も引き続き会長と青木副会長、磯貝理事の3名を記載、提出したとの報告があった。

4. 2024年度ブロック懇談会について (継続)

宮坂理事より、未定の状況であることが伝えられ、前田会長より、各支部長に打診する旨の報告があった。

5. これからの総会のあり方について (承認)

青木副会長より、今回の総会ではエクスカッションと懇親会をまとめて実施した。今後も長く継続できるようコンパクトな形を模索したいとの提言が

あり承認された。

6. 賛助会員(個人)承認について(承認)

前田会長より、メール審議の説明があり、今後は入会理由を審議、承認した後に会費を支払っていただくよう、プロセスを変更することが承認された。これに伴いHPのクレジット支払、申込内容も変更することになった。

7. 「一般社団法人シュフレ協会」への名義後援について (承認)

・牛山理事より、シュフレ協会についての説明があり、メール審議で名義後援が承認されたことが報告された。
・前田会長より、現在の活動は神奈川県内であるが、今後は女医会でも手伝えることがあれば協力したい旨が述べられた。

4. 審議事項

1. 新役員名簿の確認 (承認)

青木副会長より訂正などあれば事務局へ連絡するよう案内があった。

2. 役員会務分掌 (承認)

・前田会長より、新理事の会務分掌が発表された。委員会の説明と、委員会への新たな参加希望も奨励された。
・藤谷副会長より年間スケジュールの説明があり、活動理解の一助とし、来年度にも活かせるような内容を目指す旨が述べられた。

3. 国際婦人年連絡会所属分野別委員会 (継続)

前田会長より、8つの分野別委員会についての説明があった。活動方針等の資料を送付するので次回の理事会で所属希望を募ることとなった。

4. 役員の担当地域について (継続)

前田会長より、各支部を担当する理事の説明があり、新役員の担当支部の希望が求められた。

5. 第69回定時総会の報告と反省 (継続)

・藤谷副会長より、収支決算については7月の理事会で発表予定である旨が述べられた。

6. 第69回定時総会時の公開講演会報告 (承認)

・前田会長より、公開講演の動画に関して、講演内容に限定する変更を行った旨の説明があった。

・前田会長より、視聴数とアンケート結果の報告があった。

7. 理事会開催日程の確認と提案 (継続)

前田会長より、日程が説明された。1月の開催に関して第3日曜日から第3土曜日にするかどうかという提案がな

され、宮坂理事より、日程調整は後日意見をとりまとめ、次回の理事会で提案したい旨の発言があった。

8. 女性の健康支援事業講演会について (継続)

樋渡理事より、3候補の提案があった。7月の理事会で候補者を決定するべく、詳細を役員にメールし、審議することが求められた。

9. 宮城県女医会からの公開講演会助成申請について (承認)

樋渡理事より説明があり、5万円の助成金が承認された。

10. 2024年度第1回(4月)理事会議事録承認・4月メール審議議事録承認 (承認)

宮坂理事より説明があり、2024年度第1回理事会議事録と4月メール審議議事録が承認された。

11. 2024年4月・5月会計報告承認 (承認)

藤谷副会長より説明があり、2024年4月、5月の会計報告が承認された。

12. その他

1) 役員慶弔費の徴収について (継続)

藤谷副会長より、役員慶弔費等内規と本部会計(管理費)慶弔費等内規についての説明が行われた。役員慶弔費徴収方法については7月の理事会で報告予定との説明があった。

2) 国際女医会参加費補助額について (継続)

前田会長より、会議参加費用の補助に関し過去の状況が説明された。来年エジプトで開催される補助額の金額については、これまでの状況を鑑み、会計部に委ねたい旨が述べられた。

5. 報告事項

1. 各部、NC報告

1) 庶務部報告

宮坂理事より、新入会員と会員動静についての報告があった。

2) 広報部報告

木村理事より、会誌252号と「北から南から」についての報告があった。編集後記に関しては今後とも楽しく読んでいただくことを目的に自由な形式とする旨の説明があった。

3) 学術部報告

前田会長より、今期から望月理事に部長をお願いしている旨が報告された。

4) ナショナルコーディネータ報告

前田会長より、7/11～7/13にフィリピンセブ島にて開催される西太平洋地域会議についての説明が行われた。参加費の支払はクレジットカードからも可能になり、参加を呼びかけられた。また、本日、西太平洋地域のオンライン会議が行われており、後日内容を報告することとなった。

2. 各委員会報告

1) ダイバーシティ推進委員会

木村理事より、キャリア・シンポジウムの配信日程を変更したい旨の説明があった。

2) 長寿社会福祉事業委員会

牛山理事より、講演会についての説明があった。

3) 小児救急事業委員会

藤谷副会長より、委員会活動や委員会名について検討予定である旨の報告があった。

4) HP制作委員会

前田会長より、パピアと子宮頸がんセルフチェックのすゝめ、ハンセン病家族への給付期間延長、ジェンダーギャップ指数に関する記事を掲載した旨の報告があった。

5) 日本女性医師デー運営委員会

- ・樋渡理事より、「日本女性医師デー」の動画について前田会長に質問された。
- ・前田会長より、IWJが公開している取材動画を日本女医会のHPにも引用掲載している旨の回答があった。

3. 対外的団体活動

・国際婦人年連絡会

前田会長より、5/29に全体会・総会が開催され、新しい役員が改選されている旨の報告があった。

・国連NGO国内女性委員会

前田会長より、5/10に役員会があり、7月に開催される総会の準備をしている旨の説明があった。

以上

2024年度 ダイバーシティ推進キャリア・シンポジウム

「ロシアとウクライナの戦争を通して日本人に伝えたいこと」

配信日時：2024年11月23日(土) 12:00～

2024年11月30日(土) 12:00まで(期間限定)

開催方法：YouTubeによるオンライン開催

講師：上田洋子(株式会社 ゲンロン代表)

お申し込みは下記 URL または QR コードから

■申込期間：10/22(火)～11/22(金) 12:00まで

<https://peatix.com/event/4074091>



第17回 ダイバーシティ推進キャリア・シンポジウム

ロシアとウクライナの戦争を通して
日本人に伝えたいこと

2024.11.23 [土] 12:00～ 無料

11.30 [土] 12:00 (期間限定)

YouTubeによるオンライン開催 10月22日受付開始

■ 開会の辞 前田 佳子 (日本女医会会長)

第1部 講演 40分

株式会社ゲンロン代表 上田 洋子

座長 前田 佳子

第2部 ディスカッション 20分

上田洋子 前田佳子 青木正美 (日本女医会副会長)

宮坂明子 (日本女医会理事)

■ 閉会の辞 青木正美 (日本女医会副会長) 司会 木村 友美 (日本女医会理事)

お申し込みは下記 URL または QR コードから

■ 申し込み期間：10/22(火)～11/22(金) 12:00まで

https://peatix.com/event/4074091

主催 公益社団法人日本女医会 共催 公益社団法人日本医師会
 公益社団法人日本女医会 〒151-0051 東京都渋谷区神宮前1-5-19 03-6467-0820 Email: office@jmwa.or.jp
 日本女医会 HP: <https://jmwa.or.jp>

2024年度 長寿社会福祉事業オンラインセミナー

「病で得た食と命への気づき」

～「食べる」と「生きる」はくっついてる～

配信日時：2024年12月2日(月) 12:00～
2024年12月9日(月) 12:00(期間限定)

開催方法：Youtubeによるオンライン開催

講師：枝元なほみ先生

農業支援団体「チームむかご」代表
NPO法人「ビッグイシュー基金」共同代表

*視聴ご希望の方は、以下のQRコード、URLのいずれかより事前登録サイトにアクセスいただき、ご登録をお願いします。開催日時が近づきましたらEメールにて視聴用URLをお送り致します。

- 登録用QRコード
- 短縮URL



<https://bit.ly/3VaSTXb>

- 参加申し込みURL

<https://www.jmwa.or.jp/event-details/longlive2024>

2024年度長寿社会福祉事業オンラインセミナー

病で得た食と命への気づき

～「食べる」と「生きる」はくっついてる～

♥ 料理実演 & 養生レシピ付き ♥

2024年 **12月2日(月)** 12:00～
12月9日(月) 12:00

オンライン配信 (YouTube)

視聴 無料

* 視聴ご希望の方は日本女医会のホームページのイベント予約ページにて登録ください。開催日時が近づきましたらEメールにて視聴用URLをお送り致します

詳しい視聴方法は裏面をご覧ください。

社会的活動にも力を注いできた料理研究家。2020年に間質性肺炎と診断され、2024年1月にはコロナ感染で重症化し、現在酸素吸入しながらの生活。病で得た食と命への気づきについてお話を伺います。*料理実演&養生レシピ付き*

<講師> **枝元なほみ先生**
農業支援団体「チームむかご」代表
NPO法人「ビッグイシュー基金」共同代表

<主催・お問い合わせ>
公益社団法人日本女医会
<https://jmwa.or.jp>

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-19
ロワレル千駄ヶ谷202
電話 03-6447-0820 FAX 03-6447-0821
Email office@jmwa.or.jp

会員動静

(2024年4月1日～2024年7月23日現在・敬称略)

	氏名	支部	卒年
入会	細川美佳	青森	平成5
	千木良真保	目黒	昭和61
	廣野美沙	岡山	平成31
退会		16名	
物故	武川仁子	高知	昭和50
	木村久美子	兵庫	昭和19

編集後記

この会誌がお手元に届けられる頃は、暑さも少しは和らいでいるころでしょうか？皆さまお元気で活躍のことと存じます。日本女医会では、本年5月19日に開催された第69回総会にて、前田佳子会長が2期目の会長に就任されました。また4人の新理事も迎え、一同新体制で頑張っております。

さて、世の中では少子化に歯止めがかからず、厳しいニュースが流れています。2023年の出生数は72万人台となり昨年よりさらに4万人以上も減少し本当に心配なことです。多方面からハード面では対策が講じられていますが、それで十分でしょうか？子育て家族は18%とこれも最低の数字となりましたが、若い人たちが赤ちゃんを産み育てたいという気持ちになることが何よりも大切だと思います。体外受精での出生も10%近くに治療成果も見えるところもありますが、子育ての喜びや幸せな気持ちを伝えていき、希望や夢を持って出産できるよう応援したいものです。日本女医会も全力で応援していきます。(藤谷宏子)

寄附者一覧 (2024.4月～7月23日現在) (敬称略)

以下のとおりお知らせいたします。
ご協力ありがとうございました。

一般	直井小百合	愛知	加藤庸子
岩手	斎藤恵子	秋田	福田二代
板橋	野村和子	都下東	瀬下由美子
栃木	新井寧子	佐賀	織田洋子
栃木	島田明美	板橋	宮川美知子
大阪	坂口昌子	栃木	馬場安紀子
北海道	藤根美穂	監事	大関ひろ美
栃木	山崎トヨ	栃木	塚田篤子

日本女医会誌

復刊第252号 2024年9月25日発行

編集人 木村友美 発行人 前田佳子
制作 あづま堂印刷

発行所 公益社団法人日本女医会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-19
ロワレル千駄ヶ谷202

TEL 03-6447-0820 FAX 03-6447-0821

<http://www.jmwa.or.jp>
e-mail : office@jmwa.or.jp

